



明治五年 五月

テールボイル艦乗組
各所燈臺巡廻

日誌



114
A3940



明治五年辛酉十月廿八日

水曜日

西曆一千八百七十二年十一月廿八日

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

各所燈臺巡廻所用トシテ一ボル艦乗組出張
官員並に雇外國人左ノ通

參議大隈重信

工部大輔山尾庸三

燈臺

權大内史叔浦 讓

燈臺權頭佐藤興三

燈臺中属鈴木義廣

燈臺寮十等山莊吳榮正

燈臺少属福地義忠

燈臺技術等見習繁澤明克

燈臺外國人

燈臺二等製法方

フヒツセル

英書記官

サトウ

ン

電信頭石丸安世

長崎ヨリ 同 助石丹

同 権中属前田本方

電信寮 渡石敬信

電信寮西屋

チヨルシ

鐵道室方

カーギル

右同

ホイル

工部権大隈南獲

ニ

十月廿九日

金曜日

叙崎

一 今午前第四字横濱出帆同六字三十分叙崎
 看投錨大隈參議始出張官負並出雇外國人
 一同端船ヨリ上陸燈臺検査等相濟候事
 一 燈臺室中雨漏之場所有之多々見調多處
 強雨中 各其場所差分り兼多々追々取調
 本寮申付也 此後修繕云々

右如前年九字本船乗組之風雨浪最寄
金田沖江院泊系午後十二字前上院出帆

十月晦日

土曜日

一字六字豆洲下田港着投錨大隈始上陸

一字神兒元島燈臺構石塀並水貯所等建造

白々當所出張在石上少属件々相逢々

一神兒元島並石室崎燈臺江相掛多件々

燈明番江申敬々

右如前夜十二字本船乗組下田港出帆

十一月朔日

日曜日

一字後一字島羽港着投錨同所ヨリ小船ニテ伊勢

山田江渡午後七字着止宿

十一月二日

月曜日

一字七字大隈始

西宮参拝之系陸行ニテ午後四字島羽

歸着本船乗組

十月三日

火曜日

一平前五字為羽港上院出帆同六字志洲
管島着上陸燈臺并實吉建築白松等
出備

一燈臺外邊築二程書出張大井田權少屬
差出ス

右書平前八字管島出帆同九字三十分
志洲的矢安乘崎着

一安乘崎上陸燈臺檢査直等右備平前十一字
三十分田本出帆午後七字紀州本浦着投錨
一同上陸止宿

一沼岬燈臺出帆不城方當所江院明乘舟出
件々出帆ス

十月四日

水曜日

一平前八字本船乗組直小船ヨリ榎野崎燈臺
既成及途中風浪浪上陸々行々平前十字

三斗公燈野着燈臺於右等如例

燈臺外面其構在橋上土之儀當七月大風

各校所着之多見公之上積書之出在右

一燈臺物置并コツク部在松原根雨漏之場所

有之公之見細事及差公兼於細之上出右

抄書之

右抄書之公本船如師午後六斗子津本浦上

出帆

十月五日

水曜日

一斗六斗子早公紀則苦多島着上陸燈臺置

等如例

一在東井戸石井筒之模樣如始業抄書之

一水吏部左後續中在右多斗子之抄書之

一其值船乘組水吏之人増之儀差許

但月給金五圓也

右抄書之公斗六斗子早公苦多島津出帆斗六

十字子三十分淡則江崎着真上陸燈臺
檢有等例

一宿屋長末船 亥中三十分より上差許
右宿屋午十二字子江崎出帆午後一子松島和田
岬着燈台 上陸本船之神戸差也 燈泊
一燈台本屋藏先般より歳より燈光不
仕直 為差屋シニフキンス出集未出張
一燈台 試より燈光祇無異儀より

右宿屋午後二字三十分燈台 神戸燈泊
本船 神戸上陸止着

一宿屋石炭、板五枚本船積入

一火坂目標山 江崎より東より 出帆より 燈不

一松浦權大内史儀母親大内史より 燈不

出帆より 燈不

十月六日

金曜日

一平家九字本船乗組十字子二十五分神戸港出帆午後

四十字二十名讃州綱島町着上陸燈臺至官舎
杉分より白鳥成より来十五分然燈 杉分
より

一點鐘より官舎家茂雄儀讃州綱島燈臺迄
水動より本船より来組より

三連島燈臺明番より儀當より水動より
より如より来より上陸より水動より
ルスト儀六連 水動より本船より来組より

右由南午後八字来組

十一月七日 土曜日

一字六十字二十分綱島灯 上陸出帆同、字
由度津より投錨上陸金比羅西飯止宿

十一月八日 日曜日

一字七字金比羅内町出帆同十字より度津
着直本船来組出帆午後三十字讃州港
より洗港投錨上陸四十字来組

十月九日 月曜日

一午五字三十分 虎港上航出帆午六字
豫州約島着上陸燈臺並桑向等見合

如例

一當所假畧概取付儀當時白洲出張
駐在員此處オーストラリア領地事業泊上
結念のにお通り口所地盤松根建後張
葉地權少属并此處へドマン同一同此張

如書名名多事

一點燒るる此處地盤松根建後張
此知より上陸方地事

右書留午六字十五下地島出帆午後九字
豊田田之浦着陸指

十月十日

一午六字三十分 燈台 新地島出帆
如例

十月十五日

日曜日

一手年十一字一同本船乗組十二字長崎港
出帆

十月十六日

月曜日

一手年五字六連島沖、繋り中屋フヒツセル儀
燈臺、上陸直、乗組出帆同六字三十分長崎
門司浦、碇泊馬場、上陸
一馬場、後泊林、辰蔵、水巻、出業、中屋本船

為乗組、乗来

右お留年十一字門司浦碇泊、乗組
直、出帆年十二字十五分長崎、乗来、
フヒツセル、乗来、上陸直、乗組出帆午後
四時五十分長崎三馬場、碇泊、乗来、
上陸、乗来

一、狭、遠、乗来、乗来、イル、英、書、記、方、サ、ト、ウ、後、上陸
山口、表、乗来、乗来

十月十七日

火曜日

一 滞留

一 ボイルサトリ山口表ヨリ帰着

十月十八日

水曜日

一 午前、字本船乗組三員、沖に出帆午後六字
二十分官島着投錨上陸止着

十月十九日

木曜日

一 滞留

十月廿日

金曜日

一 午前五字本船乗組官島沖に出帆午後十二字
二十分備後尾道着電信乃、碇松大隈始
上陸午後三字二十分乗組出帆、最寄
海峡字、築間、前、多、子、楯、急、機、之、部、分、ヲ
快、之、所、ノ、碇、泊

十月廿一日

土曜日

一 午前十一字、築間、碇、出帆、午後三字、二十分

船島着燈臺上陸去十五日ヨリ點燈
無多儀多事

右左留午後五字三十分衆組結島沖出帆
午後十二字神戸港着上陸止着

十月廿二日

日曜日

一午前十字小笠原組大坂月標山に鐵燈
柱並等留午後二字不出大坂鐵
止宿

一午後五字フヒツセル其外西条組鐵燈
中屬多附係系羽立久廿四日歸坂神戸
引取也

十月廿三日

月曜日

大坂滞留

十月廿四日

火曜日

一山尾大崎より神戸引取止着

十月廿五日

水曜日

大隈始年二十子小遂多之神戶に在
年後二字二十分作有す少和日神燈臺
此紙指書等書留以和上陸し句一百如
身山口五多二十分神戶出帆

十月廿六日

水曜日

一十年六字紀別津本浦着投指フヒツセ
其外上陸以神燈臺此紙指書等書留以和
上陸し句一百如身山口五多二十分神戶出帆

如右留年二十分本浦着投指フヒツセ
三十分鐘風自志別の矢流燈台泊

十月廿七日

金曜日

一十年七字の矢流燈台午後四字五十分下田
港着燈泊

一神見元島燈臺指書等書留以和上陸し句
出帆以上十分鐘着有以

十月廿八日

土曜日

一十年六字三十公下國境上神兒兒島
 沖水勢上陸境對松本寺角日八字
 三十公乘船出帆年後三字檀濱歸着
 致多寺

一
 一
 一
 一

燈臺

人

人

